
キミヲ想フ

鈴夜 音猫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

キミヲ想フ

【Zコード】

Z3613C

【作者名】

鈴夜 音猫

【あらすじ】

突然姿を消したキミに、ボクは伝えたい事をきちんと伝えられなかつた…男が後悔の念にかられた時、その前に現れたのは…?

たつた一つ。どうしても伝えたい言葉があった…

彼女は不思議な女だった。傍にいる、それだけで気持ちが安らぐ。そんな空気を彼女は纏っていた。

こんな事なら恥ずかしさなんてかなぐり捨てて、言つべきだった。

今でも田を閉じれば浮かび上るのは彼女の笑顔。自分はこれまでに彼女を想っていたのかと、今さらながらに気付く。

「バカだな…」

自分への嘲笑を込め、男は独り言る。

「本当にバカよ、貴方は」

「愛結…」

慌て振り返った男を見つめ返したのは、戸口に立つ一人の女。腕組みをした彼女は大業にため息を吐いた。

「やつと分かつた？自分がバカな事」

「何でいるんだ…？」

男は何が何やら分からぬ。そんな男に頭を抱える様にしながら、女は男に歩み寄った。

「貴方、何か勘違いしてない？」

「え…? だつて朝『出て行く』つて…」

男の言葉に女は呆れ顔になる。

「『出かけて来る』つて言ったのよ」

女の答えに急に恥ずかしくなったのか、男は俯く。それを見て、女は微笑んだ。

「まあ、貴方らしい間違いだけど…バカね、貴方から離れるはずないでしょ?」

笑いながらキッチンへと消えて行く女に、男は一つの決断を下す。そして女の後を追い、キッチンに入る。

「ちょっと…どうしたの?」

後ろから抱きすくめ、彼女の耳元に顔を寄せる。

「大好きだよ」

言つてしまつてから恥ずかしさが込み上げて来て、男は彼女の肩に頭をのせた。すると、彼女は何を思ったか男の頭を撫で始めた。

「私もよ」

そう言つた彼女の声が優しい。唯それだけの事に、男は涙が出そうになる。

大切な彼女が変わらず傍に居てくれて、微笑んでくれる。たつた
それだけの事が嬉しい仕方ない。

ずっと言いたくて。でも恥ずかしくて口に出来なかつた言葉。そ
れを彼女は当たり前の様に受け止めてくれた。

これから先、キミがボクを捨てる事はあっても、ボクからは絶対
にキミを離したりはしないよ。だって、ボクはキミを愛しているの
だから…

(後書き)

こんにちわ。如何でしたでしょうか?今回のテーマは『脱・ダクな話』です!（意味不）ちょっとお惚けな男性と、ポジティブシンキングな女性のとある一日…といったところでしょうか?楽しんで戴けたら…と思っております!ご意見、ご感想お有りでしたらドシドシ(?)お待ちしております

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3613c/>

キミヲ想フ

2010年11月14日14時44分発行